

消費社会における「役に立つ」

アート教育に学ぶ

富田（町井）直秀

京都大学工学研究科教授

人類は欲望の充足のために生産技術を発達させてきたが、現在は技術が先行して欲望が作り出される消費社会となった。ヒトの存在性にかかわる事項さえもが定量化最適化され、交換価値として他人事のように扱われる現代では、「自分事」を徹底的に問い続けるアート視点の教育が、「役に立つ」ためのもっとも基本的な教養となりつつある。発表では、「1人になりたいけれど寂しい」「知りたいけど知りたくない」「安楽だと苦しくなる」「無視されるとつらい。同情されるともっとつらい」といった臨床現場で対峙する様々な矛盾と、時間的、空間的多様性が「正常」を持続させる概念などを紹介し、いわゆる「傾向と対策」のみでは対峙し得ないヒトの矛盾や多様性に、アート視点の教育がいかに関与するかを、音や具体事例として提示した。

また、「生きることの迷惑を積極的に受け入れられる」ことを、医療の一つの目標と設定して、アーティストたちが自分たちのアート活動に伴う迷惑を積極的に受け入れられるために常識として行っている様々な作法：たとえば、異なる世界観の尊重、本当にやりたいことへの徹底性、みずからの「行為」よりも、おのずからの「しぐさ」を尊重する姿勢など、の、教養教育としての可能性を論じた。

参考動画：

(難聴者のための音楽) <https://youtu.be/oYA8p0M0trY?t=3259>

(病と雑音の香り 1部) <https://www.youtube.com/watch?v=m2rdNVVCRSA>

(おもろトーク) <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/149/video04>

(メンタルヘルス) https://www.youtube.com/watch?v=h5U7cT_vq1s

(デザインスクール) https://www.youtube.com/watch?v=_xxZWaoax2Q

(異分野交流会) <https://www.youtube.com/watch?v=GbE5k6dRzQ0&t=3746s>

ANSHIN デザインコンセプトブック：<http://anshin-design.net/link/index.html>

著者ブログ：<http://tomitaken.secsaa.net/>